

サシバ **Gray-faced Buzzard-Eagle**

いよいよタカの渡りのシーズンです。その主役はなんといっても数の多いサシバでしょう。「サシバ」とはなんと難解な名でしょう。おそらくバードウォッチャーでも最初は戸惑ったことでしょう。一般の人達は恐らく「差し歯」を連想するでしょう。ワープロでも「さしば」を漢字転換すると「差し歯」が一番出てきます。

英名では“Gray-faced Buzzard-Eagle”、即ち Gray-faced、「Gray（灰色）の顔をした Buzzard-Eagle サシバ属の鳥」ということになります。Buzzard と Eagle をばらばらに離してしまうと、それぞれノスリとワシになってしまいますので、Buzzard-Eagle=サシバ属としてとらえることがポイントです。本によっては Gray と Grey の違いがでてきますが、Gray はアメリカ式、Grey はイギリス式のスペリングです。“Gray-faced Buzzard-Eagle” は余りにも長いので、伊良湖岬などの観察の現場では混同の無いかぎり、省略して Gray-faced だけでカウントしているようです。

「サシバもう 10 羽！」と言うとき、“10 more Gray-faced!” で十分判るのです。この省略はちょうどハシブトガラスを「ブト」、ハシボソガラスを「ボソ」と言うようなものです。

最近、文一総合出版より出た「日本のワシタカ類」ではサシバを Grey-Faced Buzzard としており、Buzzard-Eagle の扱いをしておりません。著者の意向の中に Buzzard（ノスリ）の一種としてのウェイトが大きかったのでしょうか。機会があったら質してみたいものです。

10 月は大いに “Gray-faced Buzzard-Eagle” を求めて空を見上げましょう。

大宮のハクトウワシ

『しらこぼと』No. 138、1995年10月号より